

手づくりハザードマップ、大雨行動訓練で、荒ぶる水害に備えよう！
あなたのまちで、水害に備える取組みをしてみませんか？

みずから守るプログラム地域協働事業
ガイドライン



はじめに

平成から令和にかけて、台風 19 号（令和元年 10 月）をはじめ、記録的な大雨が多発し、河川の氾濫、堤防決壊が全国各地で起こっています。愛知県では、昭和 34 年の伊勢湾台風、平成 12 年の東海豪雨等の甚大な水害を経験しましたが、ここ数年は大規模な台風襲来等を免れており、被災経験のない住民も多くなっています。近年の大雨の増加傾向を鑑みると、大規模な水害は、いつ起きても不思議ではありません。しかし、地震と異なり、水害は一定の予測が可能であり、地域のリスクや適切な避難のタイミングを理解することで、みずからの命を守ることが可能です。

愛知県建設局河川課では、平成 21 年度から愛知県内にて「みずから守るプログラム」にて地域協働事業を展開してきており、多くの市町村、自主防災会等の方々と、水害に対する防災訓練の経験を重ねてきました。地域協働事業は、水害に対する地域の危険を洗い出して確認し、どの情報を見て避難をすれば命を守ることができるのかを理解するプログラムです。

すでに愛知県下の 100 地区を超える地区にて実施されていますが、近年の全国的な水害被害の状況を踏まえると、更なる取組みの拡大が必要になっています。また地域協働事業の実施状況を、ご覧になった方々からは、ぜひ、わがまちでも実施したいとの声が寄せられています。

本ガイドラインは、こうした水害の学習や訓練へのニーズの高まりに対して、効果的な取組み、円滑な実施が可能となるよう、市町村の方々、自主防災会の方々に向けた手引きとして、とりまとめを行ったものです。

本ガイドラインを参考に、水害に対する地域の備えを広げていただければ幸いです。

※本ガイドラインは、新型コロナの影響前に企画・作成されたものであり、集合型研修の形態については、必要に応じて、リモート実施での変更を行い、地域に応じた実施方法を検討する必要があります。地域協働事業の申込み時にお気軽にご相談ください。

愛知県建設局河川課

目次

I 実施に向けて	1
1. みずから守るプログラム地域協働事業について.....	1
(1) 手づくりハザードマップ.....	1
(2) 大雨行動訓練（避難判断編）.....	1
2. みずから守る地域協働事業の特徴について.....	2
(1) マイタイムライン・災害避難カードで“避難タイミングを理解”.....	2
(2) クロスロードで“避難判断力アップ”.....	2
(3) 率先避難者を育て“地域防災力をアップ”.....	2
3. みずから守る地域協働事業の実施の必要性について.....	3
(1) 増加傾向の大雨.....	3
(2) 近年の大水害.....	3
①愛知県の大水害.....	3
②全国の大水害.....	5
4. プログラムの進め方.....	6
(1) 手づくりハザードマップ.....	6
(2) 大雨行動訓練（避難判断編）.....	7
5. みずから守る地域協働事業で学ぶこと.....	8
(1) 手づくりハザードマップで学ぶもの.....	8
(2) 大雨行動訓練（避難判断編）で学ぶもの.....	8
6. みずから守る地域協働事業の実施要領について.....	9
参考 水害に対する地区の状況をチェックし、活動の進め方を考えてみましょう.....	10
II プログラム編	13
1. 手づくりハザードマップ.....	13
(1) 作成の手順.....	13
(2) 手づくりハザードマップ.....	14
(3) 災害避難カード.....	15
(4) 用意されている手引き.....	16
2. 大雨行動訓練（避難判断編）.....	17
(1) 実施の手順.....	17
(2) 避難判断トレーニング.....	18
(3) クロスロード.....	19
(4) 手引き.....	20
3. 大雨行動訓練（伝達訓練編）.....	21
(1) 実施の手順.....	21
(2) 訓練の流れ.....	22
(3) 手引き.....	23
III 手続き編	25
1. 手続の流れ.....	25
2. 申込みの流れ.....	29
実施要領.....	エラー! ブックマークが定義されていません。

I 実施に向けて

I 実施に向けて

1. みずから守るプログラム地域協働事業について

お住まいの地域に水害が襲ってきたら、どれほどの危険があるでしょうか？

自宅に留まることは正しい行動でしょうか？ 避難所には、いつ逃げれば良いのでしょうか？

地域協働事業は、いざという時に安全・迅速に行動ができるようにするものです。2つの事業があります。手づくりハザードマップを実施し、大雨行動訓練を実施する流れです。

手づくりハザードマップ

まず、
この事業から



- お住まいのまちで、市町村の発行する「洪水ハザードマップ」をもとに避難所、避難ルートを確認するとともに「早い段階の浸水地図」を作成します。
- 地図は2日間、合計5時間で作れます。

大雨行動訓練



- 水害の進展を体験しながら、どの局面で避難判断を行い、どのようなタイミングで避難行動に移すのかを、各個人が各々考える、体験シミュレーション型の訓練です。
- 約2時間の訓練です。

(1) 手づくりハザードマップ

○市町村が発行している「洪水ハザードマップ」は、近隣の河川が氾濫したときの最大の浸水深を示したものです。避難行動は、そうなる前の早めの対応が求められます。

○「手づくりハザードマップ」は、深い浸水に至る前の、まだ避難できる早期浸水の状況マップ作成等を通じて、安全な避難ルートや避難のタイミングを考えるものです。

○市町村発行の洪水ハザードマップを地域で学び、みずからの地区や行動を考える機会として、「手づくりハザードマップ」に、ぜひ、取り組んでください。

(2) 大雨行動訓練（避難判断編）

○水害は、雨量や水位に応じて刻々とリスクが変化し、そのリスクもお住まいの条件（地形、建物、河川との距離等）によって、地域様ではありません。

○「大雨行動訓練（避難判断編）」は、水害の進展を体験しながら、どの局面で避難判断を行い、どのようなタイミングで避難行動に移すのかを、各個人が各々考える、体験シミュレーション型の訓練です。

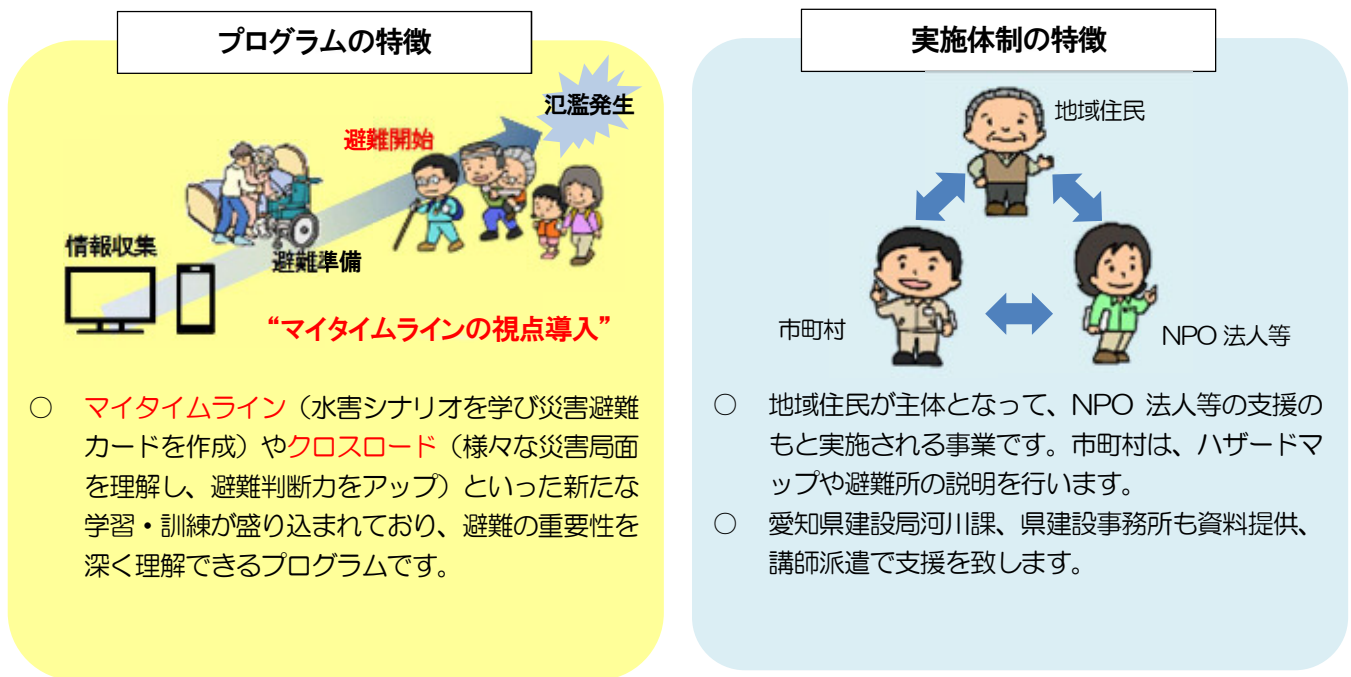
○安全な避難方法とタイミングを考える機会として、「大雨行動訓練」に、ぜひ、取り組んでください。

※大雨行動訓練は、避難判断編のほかに、伝達訓練編があります。伝達訓練編は、避難の呼びかけ等を訓練するものです。

2. みずから守る地域協働事業の特徴について

みずから守るプログラム地域協働事業は、毎年の災害経験を踏まえて、改良を続けています。

そうした取り組みによって、実際に実施していただいた地区には大変好評をいただいています。住民の水害に対する不安は、近年ますます増大しています。地域協働事業の特徴をご理解いただき、ぜひ活用してください。



- **マイタイムライン**（水害シナリオを学び災害避難カードを作成）や**クロスロード**（様々な災害局面を理解し、避難判断力をアップ）といった新たな学習・訓練が盛り込まれており、避難の重要性を深く理解できるプログラムです。

- 地域住民が主体となって、NPO 法人等の支援のもと実施される事業です。市町村は、ハザードマップや避難所の説明を行います。
- 愛知県建設局河川課、県建設事務所も資料提供、講師派遣で支援を致します。

(1) マイタイムライン・災害避難カードで“避難タイミングを理解”

- 台風は発生から被害発生まで予報や前兆時間があり、大きな河川では徐々に水位が上昇します。本プログラムでは、台風の接近に伴う豪雨による大河川の氾濫を想定した水害シナリオを理解し、避難の準備・判断・行動のタイミングを災害避難カードにまとめます。
- 手づくりハザードマップでは、マップ制作を参加者が協力して行い、参加者個人が災害避難カードの作成を行います。大雨行動訓練では、想定される水害シナリオタイムラインに応じて行政・メディア等から提供される情報を体験し、避難判断のトレーニングを行います。

(2) クロスロードで“避難判断力アップ”

- 求められる避難行動は、起こった時間帯、屋外の状況、避難される方の年齢等に応じて、必ずしも一様ではなく、総合的な状況判断が必要になります。
- クロスロードは、複数の災害対応の場面を提示したうえで、自らが避難行動に移せるのかをセルフチェックして、避難判断力のアップを図るものです。

(3) 率先避難者を育て“地域防災力をアップ”

- 地域協働事業は、地域住民が主体となって、NPO 法人等の支援のもと実施される事業です。市町村、愛知県は、その活動を支える立場になります。
- 参加者の防災知識、避難判断力を高めるだけでなく、いざという時に、参加者が“率先避難者”となることで、地域防災力がアップします。

3. みずから守る地域協働事業の実施の必要性について

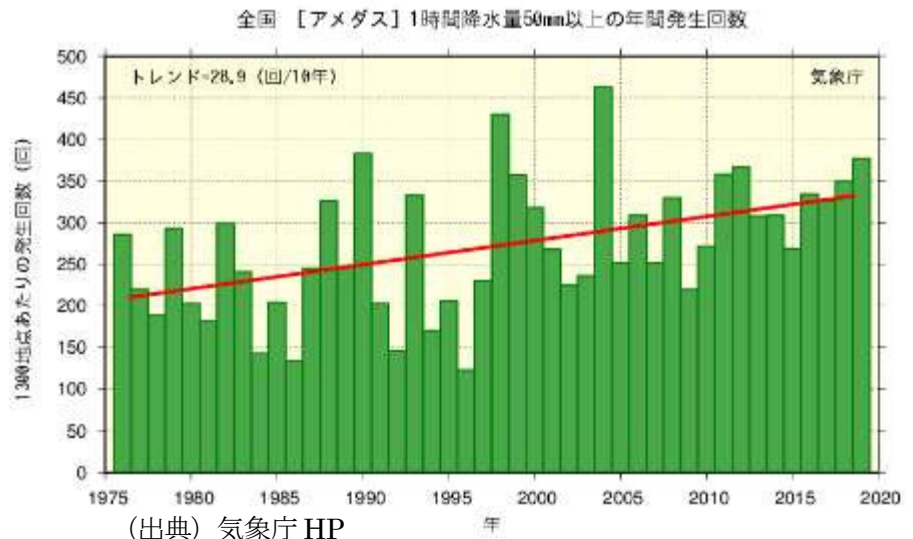
平成から令和にかけて、台風 19 号（令和元年 10 月）をはじめとする、記録的な大雨が多発し、河川の氾濫、堤防決壊が全国各地で起こっています。愛知県では、昭和 34 年の伊勢湾台風、平成 12 年の東海豪雨等の甚大な水害を経験しましたが、ここ数年は大規模な台風襲来等を免れており、被災経験のない住民も多くなっています。地域住民とともに、荒ぶる水害に備えることが必要です。

(1) 増加傾向の大雨

アメダスが観測した 1 時間降水量 50mm 以上の年間発生件数をみると、増加傾向にあることがわかります。あわせて全国各地では記録的な大雨の発生も増加しています。

水害の被災地では、被災者の方々から「過去に経験したことがない大雨」といった言葉もよく聞かれます。

過去に水害にあっていないとって、油断せずに、地区の水害リスクに向き合う姿勢が求められています。



(2) 近年の大水害

①愛知県の大水害

■平成 12 年東海豪雨～外水氾濫・内水氾濫～

2000（平成 12）年 9 月 11 日、名古屋市をはじめとする東海地方は猛烈な集中豪雨に襲われました。11 日 19 時に時間最大雨量 93mm を記録、降り始めから 12 日までの総雨量は、年間降水量の 1/3 に及ぶ 567mm となりました。

名古屋市及びその周辺の庄内川・新川・天白川・境川では、堤防の決壊や浸水被害などの都市型水害が発生しました。死者 7 名、床上・床下浸水 62,478 戸を記録し、伊勢湾台風以来の大被害になりました。



▲東海豪雨 市街地浸水の状況

■平成 20 年 8 月末豪雨～外水氾濫・内水氾濫～

2008（平成20）年8月28日から31日にかけて、東海地方・関東地方を中心に大雨による災害が発生しました。東海地方では愛知県に被害が集中し、死者2名、全半壊6戸、13,000戸以上の床上・床下浸水（しんすい）被害となりました。

岡崎市では1時間雨量146.5mmを記録。伊賀川では越水（えっすい）、内水氾濫による多数の浸水被害が発生し、特に中橋下流では堤外家屋が5戸全壊（ぜんかい）しました。



▲伊賀川 梅平橋付近の浸水状況

②全国の大水害

■令和元年台風 19 号 ～外水氾濫・内水氾濫～ “広域にわたる同時多発型水害”

2019（令和元）年 10 月 12 日に伊豆半島に上陸し、関東甲信越地方、東北地方を通過した台風 19 号は、多くの地点で観測史上 1 位の値を更新し、極めて広範囲にわたり、河川の氾濫等を発生させました。広域にわたる同時多発型の水害が特徴であり、死者・行方不明者 99 名、住宅の全半壊等約 4,008 棟、住家浸水 70,341 棟の甚大な被害になりました。5 割強の被害者の方が浸水想定区域内でしたが、夜間・深夜の増水等であったことから、車中での被災も目立つ災害でした。



▲千曲川の決壊（写真）時事通信社

■平成 28 年台風 10 号 ～外水氾濫～ “グループホームを襲った越流（岩手県岩泉町）”

平成 28 年 8 月 29 日から 30 日にかけての台風 10 号に伴う豪雨により、岩手県岩泉町にて 24 時間最大雨量 203mm、時間最大雨量 62.5mm を観測し、同町内を流れる小本川等で護岸欠壊、河道からの溢水等により、約 600 戸の床上・床下被害となりました。町内全体に避難準備情報は出されましたが、避難勧告は、過去に浸水実績のある一部の地区にしか発令されず、小本川の氾濫によって、結果として、社会福祉施設の 1 階が水没し、入居者 9 名が死亡しました。



▲社会福祉施設等の被災状況（岩手県岩泉町）
（写真）中部地方整備局

■平成 27 年 9 月関東・東北豪雨 ～外水氾濫～ “濁流のなか 4,000 人が取り残された”

台風 18 号等の影響による大雨によって、平成 27 年 9 月 7 日から 11 日までに観測された総降水量は、関東地方で 600mm を超え、記録的な大雨となりました。この影響により、死者 14 名、負傷者 80 名、住家全壊半壊約 7,100 棟、床上浸水約 2,500 棟、床下浸水約 13,000 棟の大きな被害が発生しました。鬼怒川では、河川の氾濫等が発生し、4,000 名を超える住民が取り残される事態にもなりました。この鬼怒川水害では、自治体からの避難勧告や指示の発令が遅れるなどの事態も発生しました（平成 27 年常総市鬼怒川水害対応に関する検証報告書より）。






▲鬼怒川水害にて救助される住民（写真）時事通信社

4. プログラムの進め方

(1) 手づくりハザードマップ



2日間のプログラムです。一日目は、市町村ハザードマップを学習した後、まち歩きを行うことで、実際の地域の危険箇所を探して、地図に落としていきます。2日目は、地図を作成した後、学習と地図の再確認のために災害避難カードを作成します。

1日目 まち歩き・マップ作成

<p>①勉強会</p> 	<p>②まち歩き</p> 	<p>③ワークショップ (マップ作成)</p> 
<p>○市町村発行のハザードマップから、地域で予想される水害被害や避難所を理解します。 ○地域の過去の水害、マップの書き方などを学びます。</p>	<p>○グループに分かれ、それぞれのお住まいの地域を歩いて、大雨時の問題や一時避難できる建物などを確認します。</p>	<p>○勉強会とまち歩きの結果を、一枚の白地図にまとめます。</p>

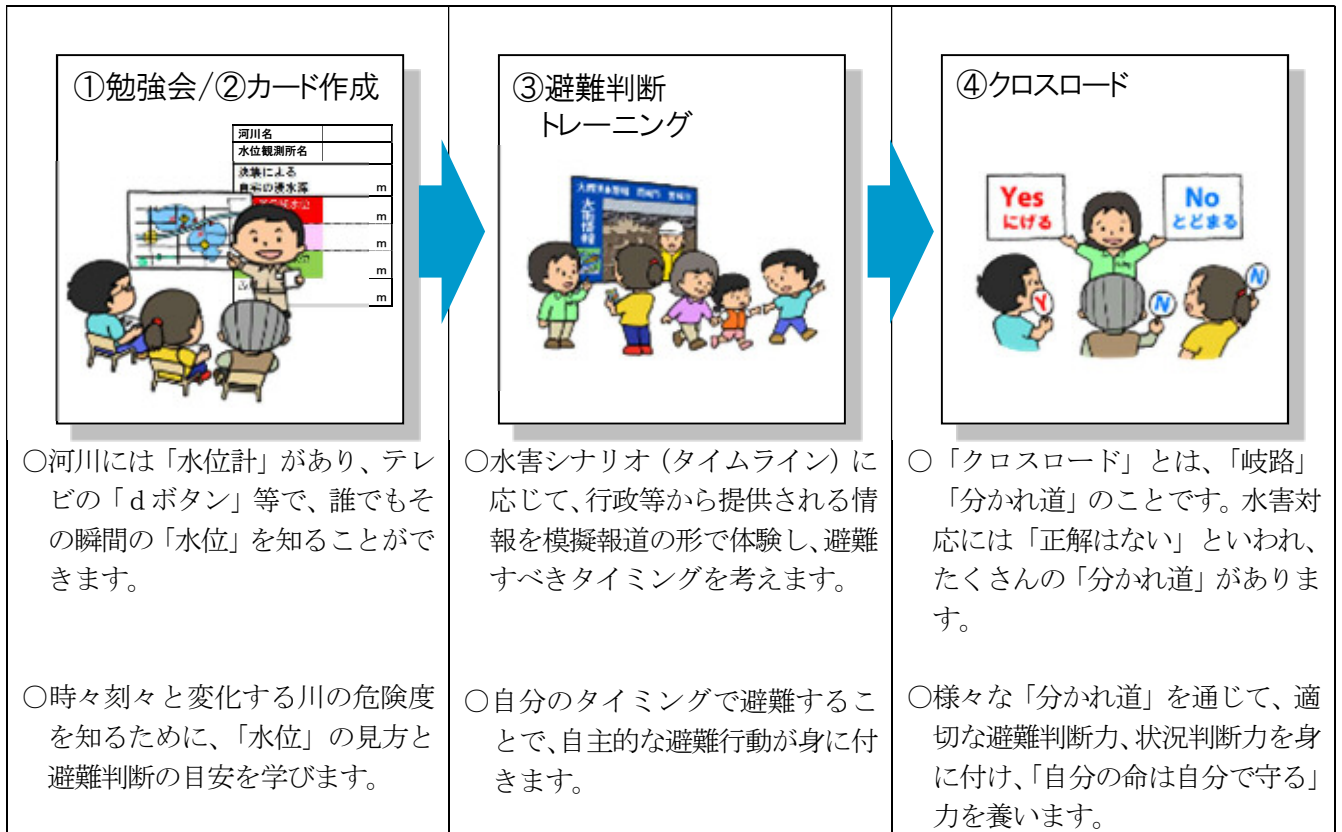
グループに分かれていた地図が、1枚にまとまります。

2日目 マップ仕上げ・カード作成

<p>①マップ記載 内容の確認</p> 	<p>②カード作成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>最大浸水深 (地盤から)</th> <th>避難に 関する情報</th> <th>あなたの 行動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>レベル5 100cm以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>危険危険水位 00m</td> <td>レベル4 避難指示 浸水警告</td> <td></td> </tr> <tr> <td>避難判断水位 00m</td> <td>レベル3 避難準備・ 高齢者避難</td> <td></td> </tr> <tr> <td>はんば注意水位 00m</td> <td>レベル2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	最大浸水深 (地盤から)	避難に 関する情報	あなたの 行動		レベル5 100cm以上		危険危険水位 00m	レベル4 避難指示 浸水警告		避難判断水位 00m	レベル3 避難準備・ 高齢者避難		はんば注意水位 00m	レベル2		<p>③意見交換</p> 
最大浸水深 (地盤から)	避難に 関する情報	あなたの 行動															
	レベル5 100cm以上																
危険危険水位 00m	レベル4 避難指示 浸水警告																
避難判断水位 00m	レベル3 避難準備・ 高齢者避難																
はんば注意水位 00m	レベル2																
<p>○記載内容の漏れや誤りを確認します。 ○これまでに出てきた意見をコメントとしてまとめます。</p>	<p>○時々刻々と変化する川の危険度を知るために、「水位」の見方と避難判断の目安を学びます。</p>	<p>○これまでの2日間のワークショップをふまえ、自分や地域が取るべき行動について、改めて意見交換します。</p>															

(2) 大雨行動訓練（避難判断編）

半日で実施できるプログラムです。安全な早期避難のための情報取得方法を学習し、自分の避難のタイミングを考えます。トレーニングは、模擬の報道テレビをみながら、どのようなタイミングで避難行動に移すのかを、各個人が各々考える、体験シミュレーション型の訓練です。クロスロードでは、過去の災害事例から様々な場面を学び、判断力を高めます。



水位情報、避難情報（避難勧告等）と住民に求められる行動の関係について座学とトレーニングで理解を深めます。



5. みずから守る地域協働事業で学ぶこと

手づくりハザードマップ、大雨行動訓練では、座学、まち歩き、トレーニング等にて、安全・迅速な避難ができるような住民をつくります。

準備された学習資料と研修を受けた NPO 法人が、事業の支援を行います。

(1) 手づくりハザードマップで学ぶもの

【1日目】

I 勉強会



I 勉強会

- 市町村発行のハザードマップ記載内容
(想定最大浸水深さ、避難所)
- 水害の種類、過去の水害、近年の気象情報など

II まち歩き・ワークショップ



II まち歩き・ワークショップ

- 早期浸水箇所の確認
- 避難ルート上の危険箇所 など

【2日目】

III マップ完成



III マップ完成

- 安全な避難ルート
- 参加者全員からの気づき・理解

IV 災害避難カード作成

河川名	
水位観測所名	
決壊による 自宅の浸水深	m
避難判断水位	m
はん濫注意水位	m
らだんの水位	m

IV 災害避難カード作成

- みずからのリスク確認
- みるべき水位観測所
- 確認が必要な水位情報、避難情報

【成果物】

手づくり
ハザードマップ

災害避難
カード

(2) 大雨行動訓練（避難判断編）で学ぶもの

【1日のみ開催】

I 勉強会



I 勉強会

- 市町村発行のハザードマップ記載内容
- 水害の種類、過去の水害、近年の気象情報など

II 災害避難カード作成



II 災害避難カード作成

- みずからのリスク確認
- みるべき水位観測所
- 確認が必要な水位情報、避難情報

III 避難判断トレーニング



III 避難判断トレーニング

- 河川水位・洪水予報・避難情報の関係
- 避難のタイミング

IV クロスロード



IV クロスロード

- 過去の水害事例をもとにした判断が難しい局面
- 正常化バイアス※の理解

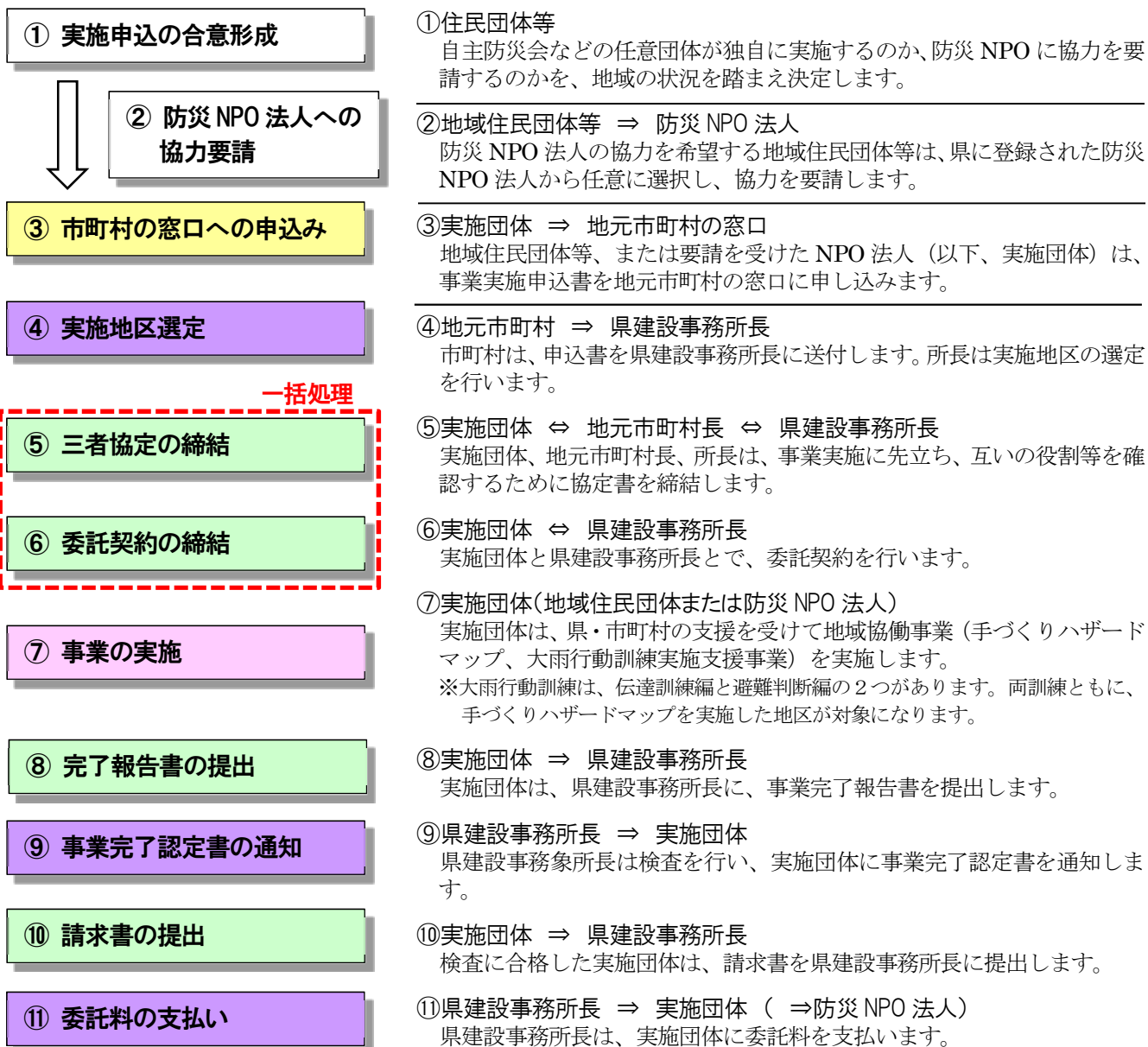
【成果物】

災害避難
カード

※正常化バイアスは、災害に遭遇した時に、「今回も大丈夫だ」「自分は大丈夫だ」と思いこむ精神状態のことです。

6. みずから守る地域協働事業の実施要領について

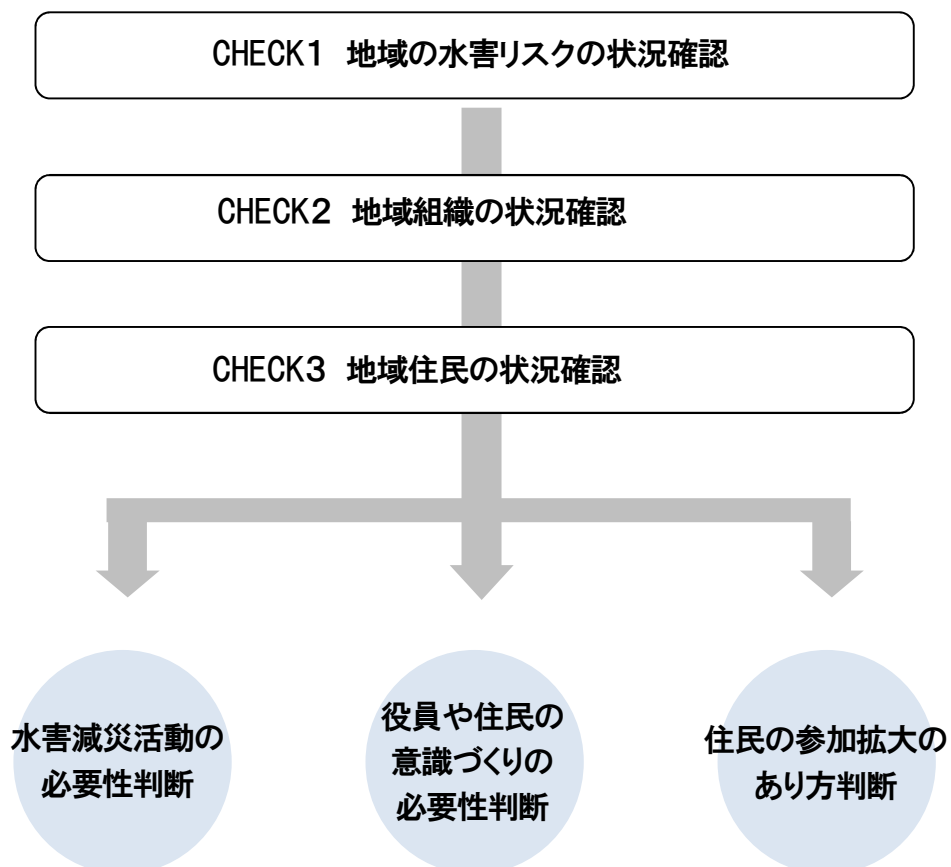
まず、実施団体（自主防災会、町内会など）が、地区役員と協議を踏まえ申込みの合意形成をしていただき、市町村の窓口（防災担当課または河川整備担当課）へお申込みください。



参考 水害に対する地区の状況をチェックし、活動の進め方を考えてみましょう

- 自主防災組織が、水害減災を目的とした住民との協働事業を進めるためには、まず、お住まいの地域や組織の強み、弱みを、正しく理解することが必要です。
- このチェックリストは、①地域の水害リスク、②地域組織の状況、③地域住民の状況から、水害減災に取り組む必要性を確認し、どのように進めるかを考えるための基礎資料となるものです。
- 次ページのチェックリストに回答いただき、地域一体となった水害減災の地域づくりを考えてみましょう。

地域をチェックして、進め方を考えましょう！



水害対策チェックリスト

1. 地域の水害リスクをチェックします

選択肢（該当する番号を選んでください）

選択した番号に対応した「地区の強み・弱み」や「活動のポイント」

1) 地区の浸水想定について 自治体から配付されている浸水想定(ハザードマップ)の地区内の想定浸水深さはどのレベルですか。	① 3m 以上の住宅地区がある。 ② 50cm～3m 未満の住宅地区がある ③ 50cm 未満の住宅地区がある	⇒	① 2階以上が浸水する可能性があり、大変大きなリスクがあります ② 1階以上が浸水する可能性があり大きなリスクがあります ③ 比較的风险の小さい地区です
---	---	---	--

2) 地区と大河川からの近さについて 堤防のある大河川から地区内の住宅地区の近さはどの程度ですか。	① 100m 未満である ② 100m～200m 未満である ③ 200m 以上である	⇒	① 堤防が壊れた場合等、家屋倒壊につながる大きなリスクがあります ② 堤防が壊れた場合等、家屋流出につながる大きなリスクがあります ③ 比較的风险の小さい地区です
---	---	---	---

3) 地区内の小河川の氾濫危険度について 過去の大雨の時に、地区内で雨水が溜まったり、道路が冠水したことはありますか。	① 過去 50 年以内に経験がある ② 50 年以上聞いたことがない	⇒	① 内水氾濫に十分な注意が必要です ② 内水氾濫のリスクの小さい地区です
---	---------------------------------------	---	---

判断1 水害（外水）への取り組みが必要な地区です

判断2 水害（内水）への取り組みが必要な地区です

判断1、2の該当地区は以下へ

非該当地区は以下へ

2. 自主防災会の水害への対応力をチェックします

1) 地域の防災全般の活動実施状況について 地域組織(自治区、自主防災会など)の防災全般の活動は活発ですか。	① 活発である ② あまり活発でない	⇒	① 年間行事(防災訓練等)を活用し、水害への取り組みを考えましょう ② まず、役員の自主防災会全般の意識を盛り上げる活動(防災活動勉強会等)をしましょう	①②津波、土砂災害等の防災の備えについて考えましょう
--	-----------------------	---	---	----------------------------

2) 地域の水害への取り組み状況について 地域組織(自治区、自主防災会など)の水害に関する取り組み活動は活発ですか。	① 活発である ② あまり活発でない	⇒	① 住民が広く参加できる活動(手づくりハザードマップ、大雨行動訓練等)を考えましょう ② まず、役員の水害に対するリスクを考える機会(水害勉強会等)を持ちましょう	同上
--	-----------------------	---	--	----

3. 地域住民の減災活動への対応力をチェックします

1) 地域のまとまり 水害減災活動に対して地域住民のまとまりは期待できますか。	① まとまりが期待できる ② あまりまとまらないと思う	⇒	① さっそく、実践的な活動(手づくりハザードマップ、大雨行動訓練等)をしましょう ② まず、住民の意識を高める機会(講座など)を持ちましょう	※1 県政お届け講座
---	--------------------------------	---	---	------------

2) 若い家族の居住状況について 地域のなかで、若い家族の方のお住まいの状況はどうですか。	① 若い家族が多い ② 若い家族が少ない	⇒	① 若い世帯にも参加を呼びかけましょう。また、子供が参加できるイベントの企画(紙芝居やカルタなど)を考えましょう ※愛知県では、水防啓発かみしばい「かんそくけいちゃんといぼうくん」の無料貸出を行っています	② 子ども世代への防災意識づくりをしましょう。
---	-------------------------	---	---	-------------------------

3) 学校との協力関係の構築期待度 水害学習について学校との協力関係は期待できますか。	① 期待できる ② 期待できない	⇒	① 総合学習などの学校と地域の連携した学びの場を考えましょう ※2 学校向け 愛知県建設局出前講座	② 放課後教室での実施例もあります。教育関係者と議論をしましょう。
---	---------------------	---	--	-----------------------------------

※1 愛知県では、県職員が無料で集会などの場に出向き、県政の様々な分野について分かりやすく説明する「県政お届け講座」を行っています。お気軽にご利用ください。申込の条件等詳しくは愛知県 Web をご覧ください。
 ※2 愛知県建設局では、「愛知県建設局出前講座」として、小学生を対象に、河川や道路、下水道など生活に必要な社会資本の役割を理解していただくため、社会科の特別授業や総合学習の一部としてご利用して頂ける出前講座を開講します。お気軽にご利用ください。申込の条件等詳しくは愛知県 Web をご覧ください

II プログラム編

Ⅱ プログラム編

1. 手づくりハザードマップ

(1) 作成の手順

2日、計6時間にて実施するプログラムです。プログラムの詳細は、手引きが用意されていますので、同手引きにて準備を進めてください。作成したマップは各戸配布したり、公民館などみんなが見ることができる場所に掲示します。



STEP 1 運営者企画会議

【町内会役員が市町村職員の支援を得て開催します】

- ① 役員の役割分担
- ② 参加者の選定 と グループ分け
- ③ 実施スケジュール
- ④ 支援者への参加要請
- ⑤ 都市計画白図 と 文房具の調達
- ⑥ 印刷業者への発注

STEP 2 勉強会・まち歩き ・マップ作成

【住民の広い参加のもと開催します】

- 勉強会
 - ・洪水ハザードマップ（地域の最大被害）
 - ・地域の過去の水害
 - ・手づくりハザードマップの作り方
- まち歩き
 - ・水害のときに見えなくなる危険な場所・障害物や、一時避難できる場所を調べます。

- ワークショップ（マップ作成）
 - ・地図を手書きで作成します。
- 発表会
 - ・グループごとにマップまとめの結果を発表します。

STEP 3 マップ仕上げ

【STEP2の参加住民にて開催します】

- ワークショップ（マップ仕上げ）
 - ・STEP2と同じグループに分かれ、グループごとに作成した複数の図面を1枚にしたものをもとに、記載内容を確認し、グループごとにコメントを考えて、記入します。
- 発表会
 - ・グループごとに、記入したコメントや、その地域での安全な行動や、情報の取得方法などの大雨が降ったときの判断のポイントを発表し、意見交換を行います。
- 災害避難カードの作成
 - ・洪水ハザードマップの情報を各自が確認し、災害避難カードとしてまとめます。

(2) 手づくりハザードマップ

経験談、まちの観察、行政が予測した浸水想定から、水の来る方向、危険な場所、逃げるタイミングやポイントをまとめます。

地域で想定される最大被害(洪水ハザードマップの記載内容)を学びます

お住まいの市町村からは、50～150年に一度の大被害を表した「洪水ハザードマップ」が配布されています。そこから、近隣の河川がはん濫したときに想定される最大の浸水深を学びます。

そうってからでは遅い！ 早めの避難！

その上で、洪水ハザードマップの状態に至るまでの予兆や過程(内水)と、行動のためのヒントをまとめます

洪水ハザードマップからは、地域の危険を知ることができますが、最大の被害を表現しているため、この段階では、行動に移すには手遅れです。

手づくりハザードマップでは、「内水が始まり更に強い雨が降っている状態」を地図にまとめることを通じて、お住まいの地域での早期の判断と行動につなげることを目指します。

マップには、避難所や一時避難所を記載する必要がありますが、新型コロナウイルスの影響に伴い、多様な避難所(親戚や知人の家、近隣のマンション等)の確保が求められており、地域での話し合いを行い、公的な避難所を代替できる施設、場所も記載しておきましょう。

(3) 災害避難カード

マップから一歩進み、自ら避難行動を起こすには、どうしたらよいかについて、考えます。マップではまとめ切れなかった想定される最大被害を、みずからの立場から家屋単位でまとめます。

洪水による「地域の最大被害」が分かりません

手づくりハザードマップは「予兆」とその後の「過程（内水）」をまとめるのが中心です。しかしながら、これでは最大被害のことが学べず、避難の重要性に気づきにくいという問題がありました。

早めの避難の重要性を理解し、確実な避難のきっかけに！

家屋単位で、最大被害と公的機関から届く情報をまとめます

標高や流速などから家屋ごとに洪水被害は異なるため、地域の中でも人によって避難の必要性は異なります。それぞれの世帯ごとに最大被害をまとめて避難の必要性を考えるとともに、水位情報や避難情報といった公的機関から提供される情報を学び、「まだ大丈夫」から「もう避難しないとまずい」が切り替わる基準を考えます。

作成日 年 月 日

大雨洪水、災害避難カード Var. 19.2

①階数・構造	自宅の階数()階 階 木造・コンクリート造・その他
②避難所の名称と住所	名称() 所要時間(車・徒歩)分
③避難経路から見た洪水の危険度 (避難経路上で水たまりになりやすい箇所)	高い・やや高い・やや低い・低い・なし
④堤防が決壊した場合の想定最大浸水深	5m以上・2m～5m未満・1m～2m未満・0.5m～1m未満・0.5m未満
⑤洪水時家屋倒壊危険地域*	内・外

*洪水時に家屋倒壊のおそれがある区域(洪水浸水想定区域等)

■お近くの河川と見るべき水位観測所⑥ ⇒ ○○川 ○○観測所 または △△観測所

■近くの堤防が決壊が懸念されるときに、避難行動の目安となる水位とあなたの行動

⑦水位観測所の水位の目安	避難に関する情報	⑧あなたの行動(いつ・何をするか?) (記入例)①家族で相談 ②避難所への移動準備 ③近所への声掛け ④避難所へ移動 ⑤自宅の2階へ避難
危険危険水位 ○○ 0.0m △△ 5.0m	レベル5 氾濫発生	
避難判断水位 ○○ 0.0m △△ 0.5m	レベル4 避難指示 避難勧告	
はん濫注意水位 ○○ 0.0m △△ 0.5m	レベル3 避難準備・ 高齢者避難	
普段の水位 ○○観測所 0.0m (水位標のゼロ点高 0.0m) △△観測所 △.△m (水位標のゼロ点高 △.△m)		

※河川の水位情報と避難に関する情報は必ずしも連絡するものではなく、避難情報発令のタイミングはあくまで目安です。

【水位の取得方法】

テレビdボタン	NHK、メーテレの2局から利用可能です
WEB	愛知県・国土交通省の「川の防災情報」から利用可能です。「川の防災情報」で検索
メールサービス	○○メール(登録先 ○○市)、みずから守る防災情報メール(登録先 愛知県)
ライブカメラ	愛知県・国土交通省の「川の防災情報」から利用可能です。「川の防災情報」で検索

■大雨の時に見るべき雨量観測所について

○家の近くの雨量観測所 ⇒ (○○○)

※家の周辺だけでなく上流部の雨量にも注意してください。

○気象庁の「大雨注意報」は時間雨量 20～30mm が基準となっており、浸水や土砂災害の恐れがあります。

■大雨の時に見るべき気象情報について(雨量レーダー)

○河川の上流部や中小河川では水位上昇速度が非常に速いことがあるので、雨量のリアルタイムの状況を、テレビdボタン、Web(気象庁、国土交通省、愛知県など)、スマートフォンのアプリなどで確認しましょう。

■避難行動の留意点

□堤防近くにお住まいの方は、堤防が決壊した場合に家屋が倒壊する可能性もありますので早めの避難が必要です。

□周りで浸水が始まっている場合や逃げ遅れた場合は、無理に避難せず2階等の安全な場所へ移動してください。(メモ)

・手づくりハザードマップ作成時の意見を参考に記入します。

・市町村の洪水ハザードマップ等を基に、この地域でみるべき水位観測所の情報をまとめます。

・それにより、川の危険度が分かるようになります。

・地デジ「dボタン」で見ることができますので、参加者に知ってもらえるようになります

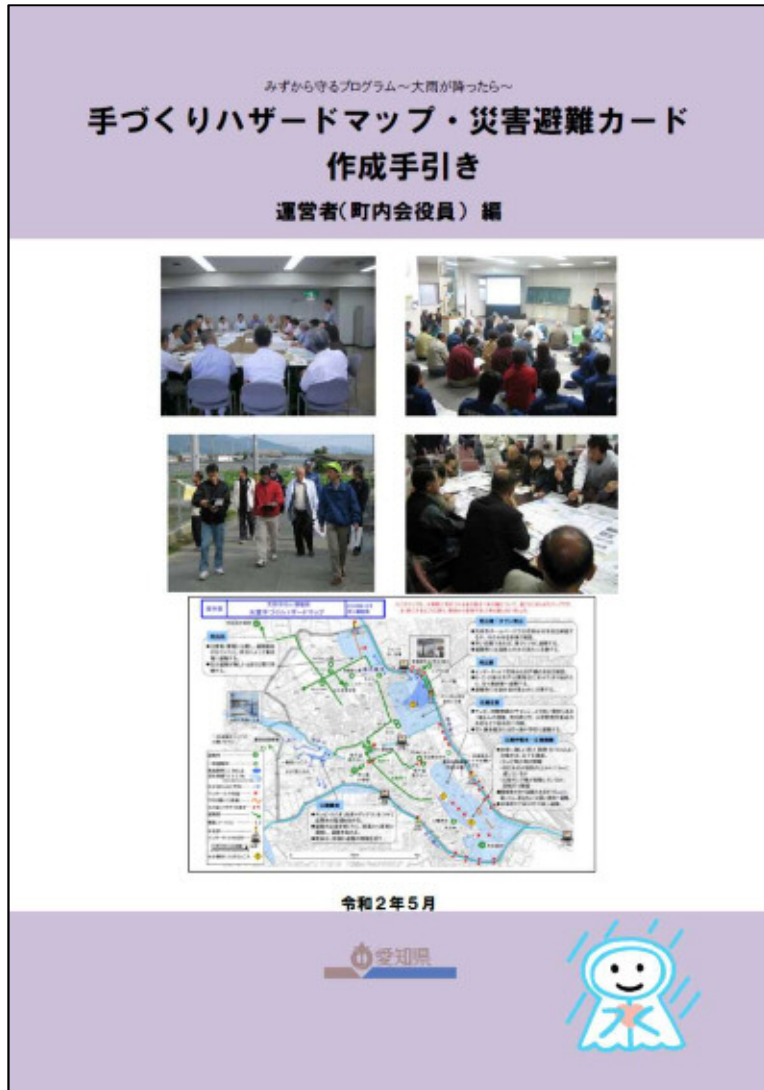
・「避難行動」について、一人ひとり想定される被害は異なります。ハザードマップの浸水深を参考に、被害に遭わない方法を考えてみましょう。

・手づくりハザードマップの記載事項から、自分に関する内容を転記すると良いでしょう。

(4) 用意されている手続き

手引き（運営者編）が用意されています。この手引きは、手づくりハザードマップ・災害避難カードの作成にあたっての、運営側の立場となる町内会・自主防災会の役員の方々のために作成したものです。

①手づくりハザードマップ・災害避難カード作成手引き 運営者（町内会役員）編



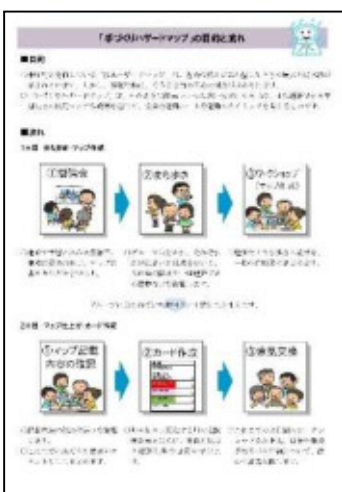
【目次】

- I. 手づくりハザードマップって何？
- II. 災害避難カードって何？
- III. 手づくりハザードマップ・災害避難カードの作り方
- IV. 作成の手順
 - STEP 1
 - STEP 2
 - STEP 3

参考：ワークショップのスケジュール案

参考：一宮市五日市場町内会の例

②手づくりハザードマップ・災害避難カード作成手引き 参加者編編

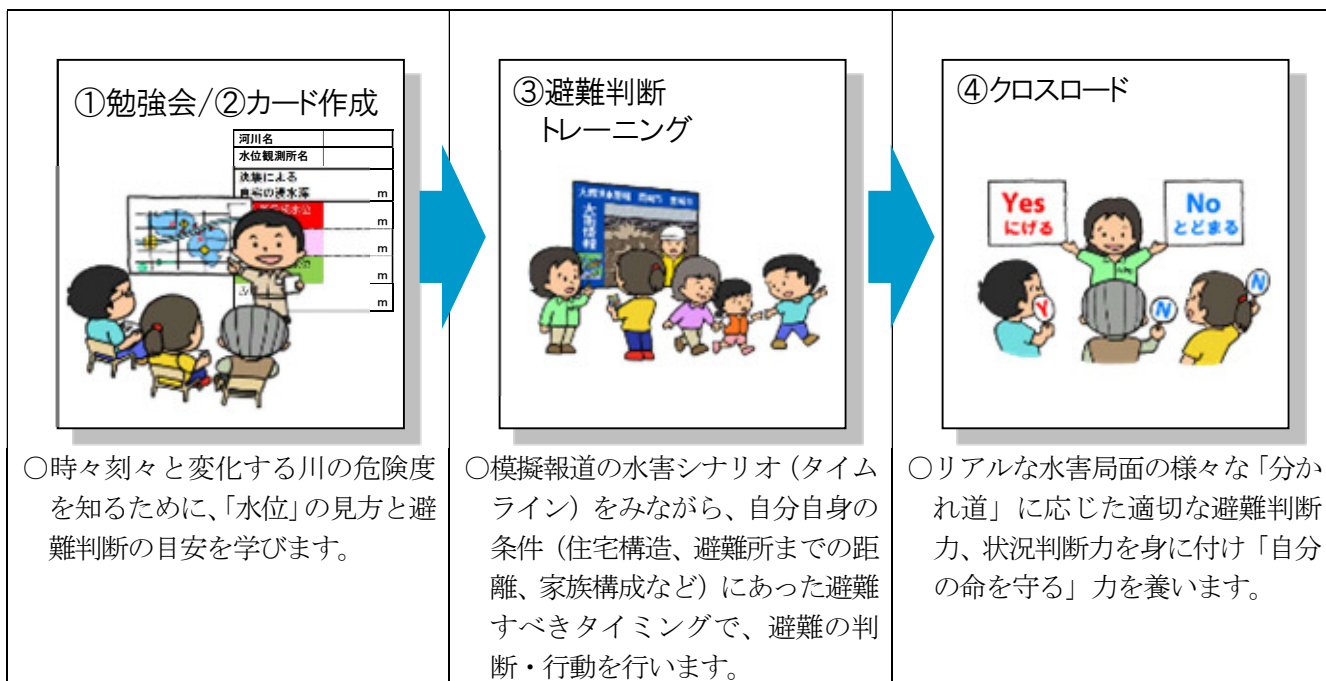


※参加者に進め方を説明した「参加者編」も用意していますので、年間行事の説明、実施に向けた役員会議等でご利用ください。

2. 大雨行動訓練（避難判断編）

(1) 実施の手順

半日、2～3時間にて実施するプログラムです。プログラムの詳細は、手引きが用意されていますので、同手引きにて準備を進めてください。勉強講師、司会者の方は、地域のリスクや、水位と避難情報の関係にて地域に応じた予習が必要になりますので、十分な準備をしてから訓練に臨んでください。



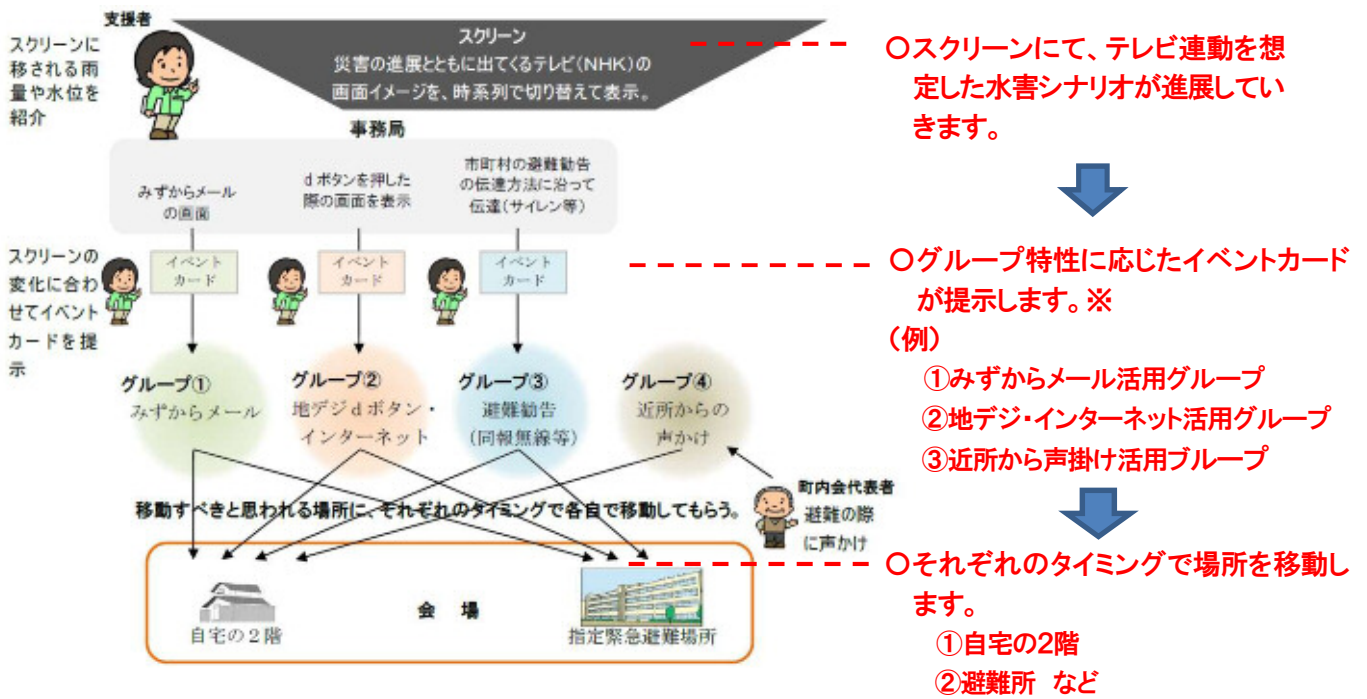
【事前に確認しておくこと】

- 市町村発行のハザードマップ ⇒ 実施地区の想定災害規模の浸水想定
- 手づくりハザードマップ ⇒ 同種のマップの作成があれば、その内容を理解しておく
- 家屋倒壊等氾濫想定区域に該当しているか確認
- 近傍の水位観測所の位置（国管理、愛知県管理、危機管理型水位計の位置を確認）
- 確認が必要な河川水位情報と河川水位・洪水予防・避難情報の関係
- 水位情報の取得手段 ⇒ 市町村毎にメールサービスの内容が異なります
- 河川監視ライブカメラの確認

※投影・配布資料の標準的なひな型をまとめたDVDを用意していますので、このひな型を用いて、投影・配布資料の作成を進めてください。資料作成には、2～3時間程度の必要です。

(2) 避難判断トレーニング

過去の水害をモデルとして作成した水害シナリオ（タイムライン）にて、この地域で発生した際に想定される状況のテレビ画面をスクリーンに映します。参加者は、提供されたそれら情報を見て、指定緊急避難場所への避難が自宅の2階（緊急一時避難）か、選択をして移動します。



※イベントカードは、グループ毎につくる必要がありますが、メールについては、画面表示されますので、テレビだけみるグループと、メールを受け取るグループの2グループで実施する場合は、とくにイベントカードの作成の必要はありません。



○会場の前のスクリーンをみて、避難のタイミングを自分で考えて、会場の前から後ろに移動します。

○会場が小さい場合は、椅子から立ち上がることで、避難をしたとみなす方法もあります。

会場での避難場所の想定については、従来は、公的な避難所や自宅の2階を示すことが一般的でしたが、新型コロナウイルスの影響に伴い、多様な避難所（親戚や知人の家、近隣のマンション等）の確保が求められており、地域での話し合いを進め、様々な避難所を設定した訓練も考えてみましょう。

(3) クロスロード

過去の災害事例（夜間の被災、避難途中の被災、避難しなかったことでの被災）など、実際の水害局面をクロスロードにまとめました。リアルな水害局面のクロスロードから、避難行動の判断力を高めます。



○リアルな水害局面で、人はなぜ逃げれないのか？

○自分のなかの避難阻害要因を知ろう！

○過去の水害被害から、避難行動を妨げる理由は、受け手の情報理解、家族・財産との関係、避難経路等のリスクにより様々な要因があることがわかっています。

○早く逃げた方が安全だと思っけていても、実際には、逃げる決心ができなかったり、楽観的な判断から逃げ遅れたりすることが被災につながる場合があります。（こうした避難判断を鈍らせる状況を「正常化のバイアス」と呼びます）

○堤防のある河川直近にお住まいの方、平屋建物にお住まいの方、高齢者の方は、水害は、命に関わる災害となる可能性があります。また避難経路で危険な箇所がある場合は、避難時で思わぬ被害に遭遇することもあります。

○「クロスロード 大雨行動訓練編」は、水位情報や避難勧告等の基本的な理解をされた方に対して、難しい局面や、イレギュラーな局面があることを知っていただく機会を提供し、リアルな水害局面に応じた避難行動の判断力を高めていただくために実施するものです。

※クロスロードは、6つのケースが用意されていますが、地区の状況に応じて、2～3問を選んで実施します。

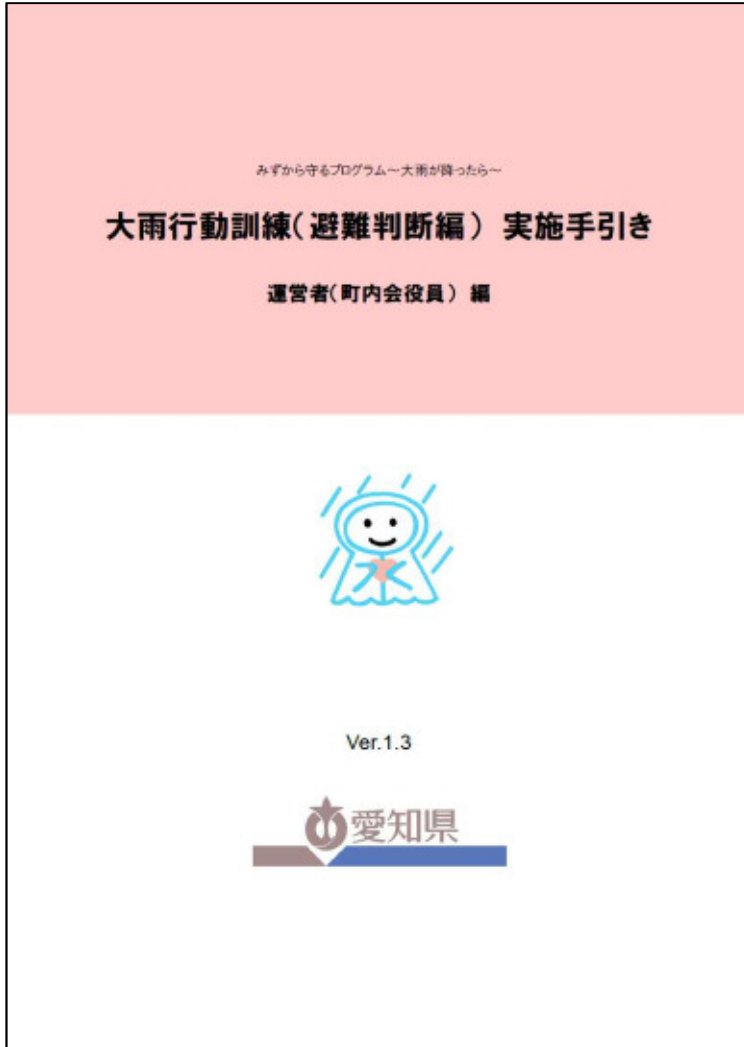
【用意されているクロスロード】

- ケース1 平成21年8月に発生した台風23号で、佐用町本郷地区の災害を再現したものです。夜間の避難は、危険を伴うことが理解します。
- ケース2 平成27年9月の関東・東北豪雨をもとに作成したものです。行政からの避難勧告だけでなく、みずからが河川水位を注視することが重要性を学びます。また、避難判断には、個人の意志（「マイスイッチ」）だけでなく「地域スイッチ」が重要であることを学びます。
- ケース3 平成28年8月30日 台風10号による岩手県小本川の災害を再現したものです。避難準備情報の意味を理解し、高齢者には早めの避難開始が必要であることを学びます。
- ケース4 平成29年7月14日、尾張北部を流れる合瀬川（あいせがわ）、五条川、薬師川が越水し、岩倉市、大口町等で浸水が発生した。その時、住民からの問い合わせが役所に殺到したことで事例に作成しました。
- ケース5 平成29年7月の九州北部豪雨をもとに作成したものです。急速な事態の変化で多くの方が亡くなった水害です。自主的な避難の重要性を理解します。
- ケース6 土砂大学の事例を参考に作成します。土砂災害の危険性がある地区でご活用ください。

(4) 手引き

手引き（運営者編）が用意されています。この手引きは、災害避難カード、避難判断トレーニング、クロスロードの作成にあたっての、運営側の立場となる町内会・自主防災会の役員の方々のために作成したものです。

①大雨行動訓練（避難判断編）実施手引き 運営者（町内会役員）編



【目次】

- I. 大雨行動訓練（避難判断編）の目的
- II. 事前準備
- III. 実施内容
 - ①カード作成の進め方（60分）
 - ②避難判断トレーニング（30分）
 - ③クロスロード（20分）

参考：全体のスケジュール案

参考：タイムラインの訓練シナリオと司会者運営ポイント

②タイムライン事前確認シート

No.	活動内容	実施日時	実施場所					備考
			1	2	3	4	5	
1	参加者募集	実施日時						
2	災害避難カード作成	実施日時						
3	避難判断トレーニング	実施日時						
4	クロスロード	実施日時						
5	振り返り	実施日時						
6	解散	実施日時						
7	準備完了	実施日時						
8	総括	実施日時						
9	終了	実施日時						
10	準備完了	実施日時						
11	準備完了	実施日時						
12	準備完了	実施日時						

※参加者の方には、災害避難カードを作成いただいたうえで、トレーニングで実施する水害シナリオが詳細に記載された、タイムライン事前確認シートを記入いただいたうえで避難判断トレーニングに行います。お自宅に帰ってからも、トレーニングの内容を復習することが可能です。

3. 大雨行動訓練（伝達訓練編）

(1) 実施の手順

半日、2～3時間にて実施するプログラムです。プログラムの詳細は、手引きが用意されていますので、同手引きにて準備を進めてください。勉強講師、司会者の方は、地域リスクや、水位と避難情報の関係にて地域に応じた予習が必要になりますので、十分な準備をしてから訓練に臨んでください。



訓練の実施に向けて、運営手順などを話し合います。

勉強会では、市町村職員から、避難勧告の発令基準を学びます。また、学習教材「過去の水害事例」、「命を守る情報について」を使って事例や防災情報について学習します。その後、一旦帰宅して、手づくりハザードマップを使った行動を体験します。

【事前に確認しておくこと】

- 運営リーダーの選出 ⇒当日の司会や連絡の開始など
- 日程調整
- 連絡網の確認 ⇒運営リーダーから各組長へ、各組長から参加住民への、連絡網
- 訓練中の集合場所の確認
- 参加者への呼びかけ
- 勉強会のために確認しておくこと（手づくりハザードマップと同じ）
 - ・市町村発行のハザードマップ
 - ・手づくりハザードマップ
 - ・家屋倒壊等氾濫想定区域に該当しているか確認
 - ・近傍の水位観測所の位置（国管理、愛知県管理、危機管理型水位計の位置を確認）
 - ・確認が必要な河川水位情報と河川水位・洪水予防・避難情報の関係
 - ・水位情報の取得手段
 - ・河川監視ライブカメラの確認

(2) 訓練の流れ

大雨時を想定して、以下のような流れで地域一斉連絡を行い、実際に避難所まで移動する訓練です。

開始

①

0:00~1:00



勉強会の開催

- ・地域の避難勧告基準の学習
- ・教材「命を守る河川水情報」の学習
- ・訓練シナリオの説明

②

1:00~1:20



自宅に帰宅

- ・参加者は、一旦自宅に帰宅します。

③

1:20~1:30



情報伝達 1

- ・避難準備情報^{※1}を、参加住民に伝達します。

④

1:30~1:50



一時避難所へ移動

- ・参加住民は、一時避難所へ移動します。
- ・集まったら「班」「組」ごとに、点呼をとります。

⑤

避難勧告を発令しました。

2:00~2:10



情報伝達 2

- ・避難勧告^{※2}を、参加住民に伝達します。

⑥

2:00~2:10



避難所へ移動

- ・参加住民は、避難所へ移動します。
- ・「班」「組」ごとに、まとまって移動しましょう。

⑦

2:30~3:00



反省会の開催

- ・訓練を振り返り、意見交換を行いました。
- ・手づくりハザードマップ、連絡網などを改善し、定期的開催しましょう。


終了

(3) 手引き

手引き（運営者編）が用意されています。この手引きは、訓練の実施に向けて、運営側の立場となる町内会・自主防災会の役員の方々のために作成したものです。

①大雨行動訓練（伝達訓練編）実施手引き 運営者（町内会役員）編

みずから守るプログラム ～大雨が降ったら～
『大雨行動訓練（伝達訓練編）』実施の手引き



I. なぜ大雨行動訓練を実施するの？

いざ水害が発生したときの、正しい判断に必要な防災情報の意味が学べます。
水害が発生したときに自身やご家族の命を守るためには、自宅の2階に待機して情報収集に努める「高所待機」か、自宅から屋外に出て避難所や地域の高台に避難する「屋外避難」のいずれかの行動を、水害の状況を正しく判断し選択しなければなりません。しかし同じ地域にお住まいの方でも、建物の高さ、構造、周辺の地形などによってその浸水の速さに差えられるかが異なるため、個々の正しい行動の選択も異なる場合があります。
そのため、地域に伝達される「避難勧告」などの情報も、ご自身やご家族にとってどういった意味を持つ情報なのかなど、防災情報の意味を正しく理解しておく必要があります。
そこで、大雨行動訓練では、勉強会において「どういった防災情報が、いつ、どこから下に入るのか」と、その防災情報に接したとき、どういった判断をする必要があるのかを、学習教材を用いて学習できます。




手づくりハザードマップを活用し、安全な行動が理解できます。
大雨行動訓練では、勉強会の後に一旦自宅に帰宅し、地域の連絡網を利用して手づくりハザードマップに記載された避難路や、一時避難所を確認しながら、改めて地域の避難所まで移動を体験します。こうした訓練によって、お住まいの地域で「早期避難を行う際の比較的安全な経路はどこなのか」、また「避難途上で浸水に見舞われたとき緊急的に避難できる一時避難所はどこなのか」を確認することができます。
年に1度など、定期的に実施することで、常に手づくりハザードマップへの認識を新鮮に保つことができ、いざといったときの安全な行動に繋がることが期待されます。

II. 大雨行動訓練の実施方法

1. 前提条件（訓練を実施するために必要なこと）

- 市町村職員の協力
このプログラムは、市町村役場から発令される「避難準備情報」や「避難勧告」による訓練を体験するため、市町村職員の協力が必須です。
- 手づくりハザードマップの作成
浸水が始まってから屋外に避難することは、非常に危険です。そのため、地域で浸水が始まったら大雨が降り始めているような状況を前提として作られた「手づくりハザードマップ」が必須です。

2. 実施までの手順

STEP 1	STEP 2	STEP 3
運営者企画会議	勉強会(1時間)	訓練の実施(2時間)
		
訓練の実施に向けて、運営者企画会議を開催し、訓練の手順などを話し合います。詳しくは裏面をご覧ください。	勉強会では、市町村職員から、避難勧告の発令基準を学びます。また、学習教材「過去の水害事例」、「命を守る情報について」を使って事例や防災情報について学習します。	その後、一旦帰宅して、手づくりハザードマップを使った行動を体験します。

1

【目次】

- I. なぜ大雨行動訓練を実施するの？
- II. 大雨行動訓練の実施方法
 - 1 前提条件
 - 2 実施までの手順
- III. 運営者企画会議で話し合うこと
- IV. 訓練の流れ（訓練シナリオ）
- V. 参加者への配布資料の作り方

注：手ハザードマップの次のステップとして、避難所や緊急な一時避難所の確認にご活用ください。

この訓練では、勉強会の後に一旦自宅に帰宅し、地域の連絡網を利用して手づくりハザードマップに記載された避難路や、一時避難所を確認しながら、改めて地域の避難所まで移動を体験します。

こうした訓練によって、お住まいの地域で“早期避難を行う際の比較的安全な経路はどこなのか”、また“避難途上で浸水に見舞われたとき緊急的に避難できる一時避難所はどこなのか”を確認することができます。

年に1度など、定期的に実施することで、常に手づくりハザードマップへの認識を新鮮に保つことができ、いざといったときの安全な行動に繋がることが期待されます。

※ただし、地域で連絡名簿が作れないなど、この訓練が実施できない地域があると思います。

その場合は、大雨行動訓練（避難判断編）を実施してください。

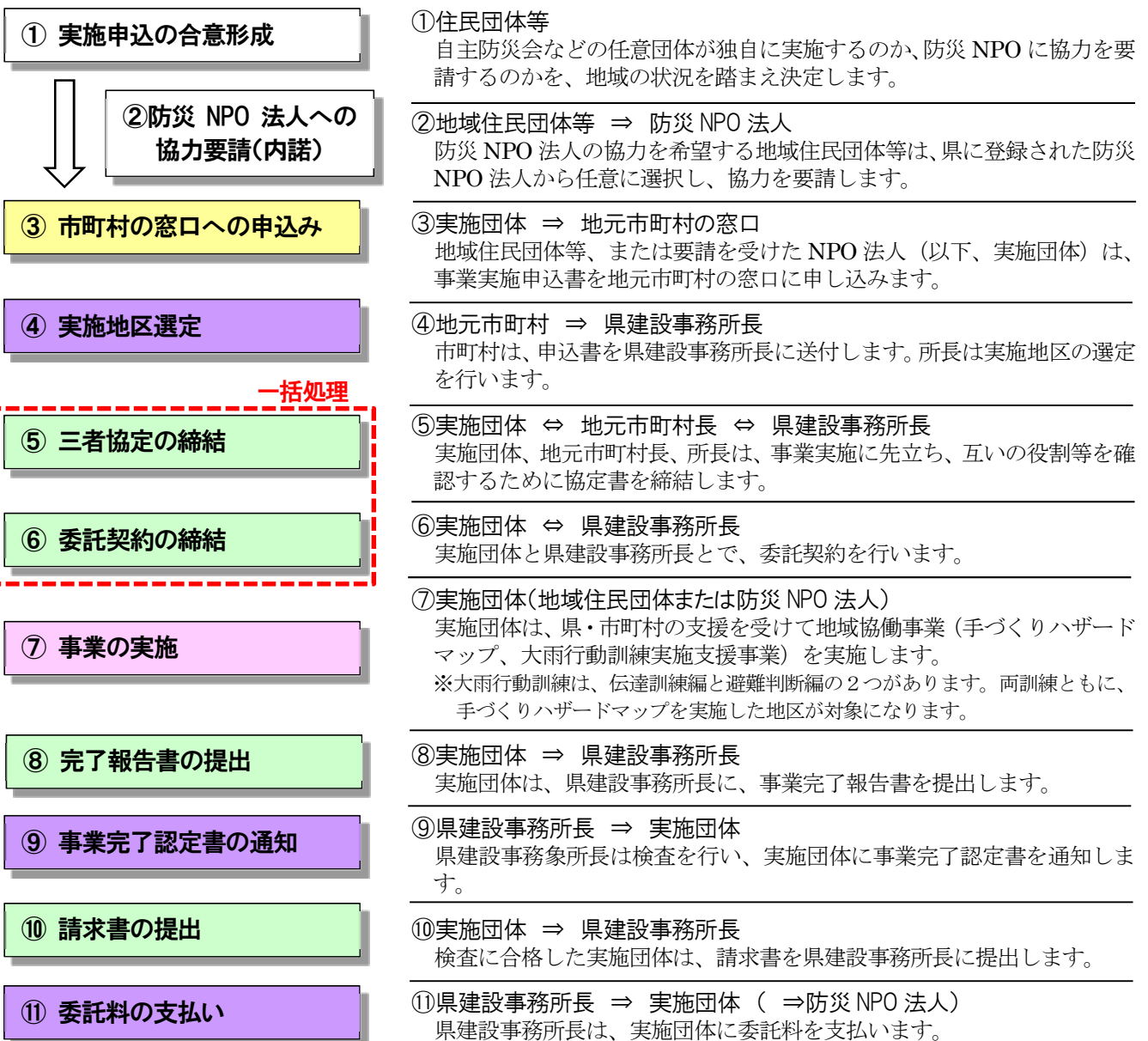
本訓練は、避難所での参集が必要となるため。新型コロナの感染予防の観点から、町内会全体での大人数での実施は当面困難だと思われます。家族単位にて実施し、避難所には、立ち寄るだけの対応を図るなど、地域に応じた訓練の見直しが必要です。

Ⅲ 手続き編

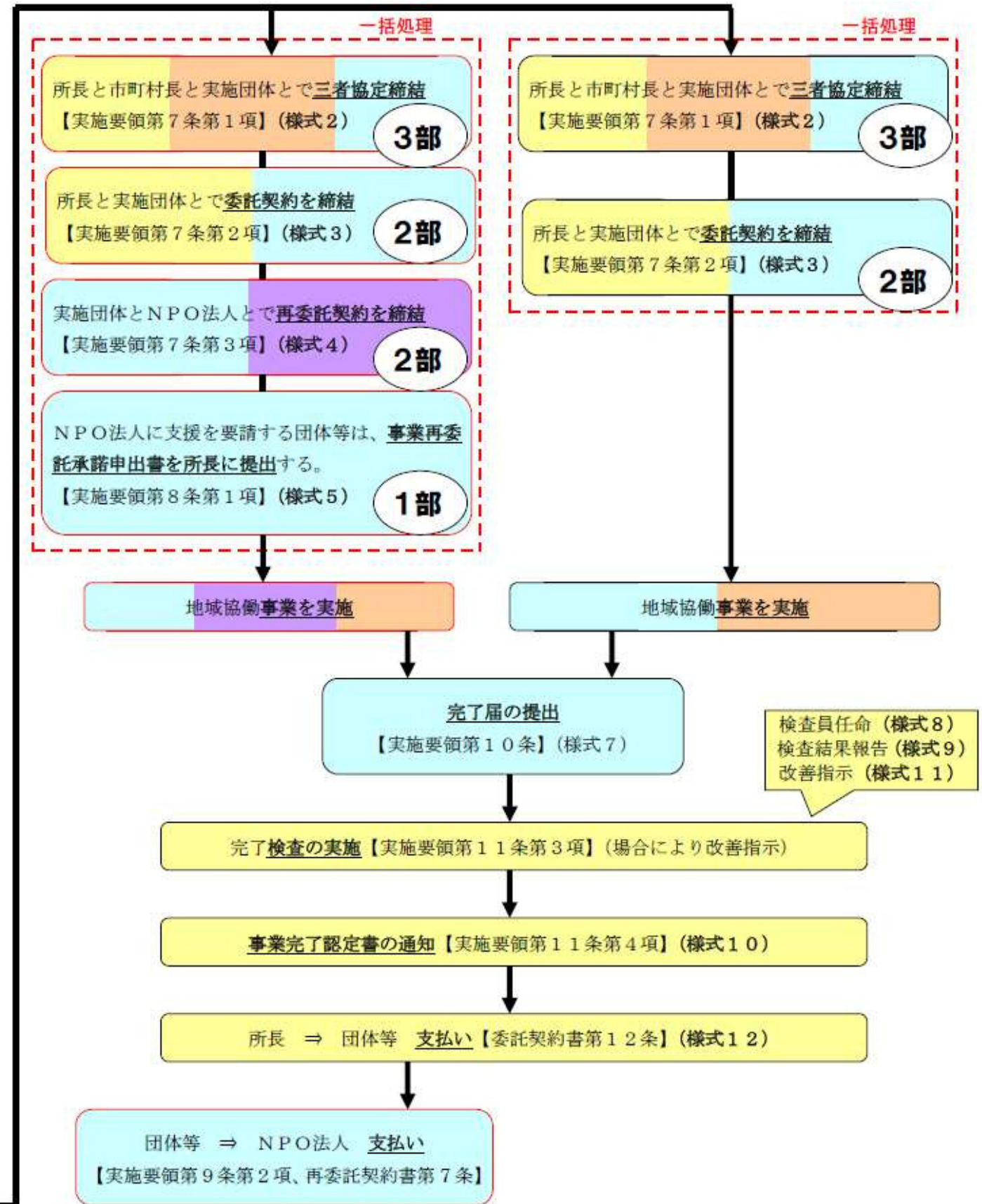
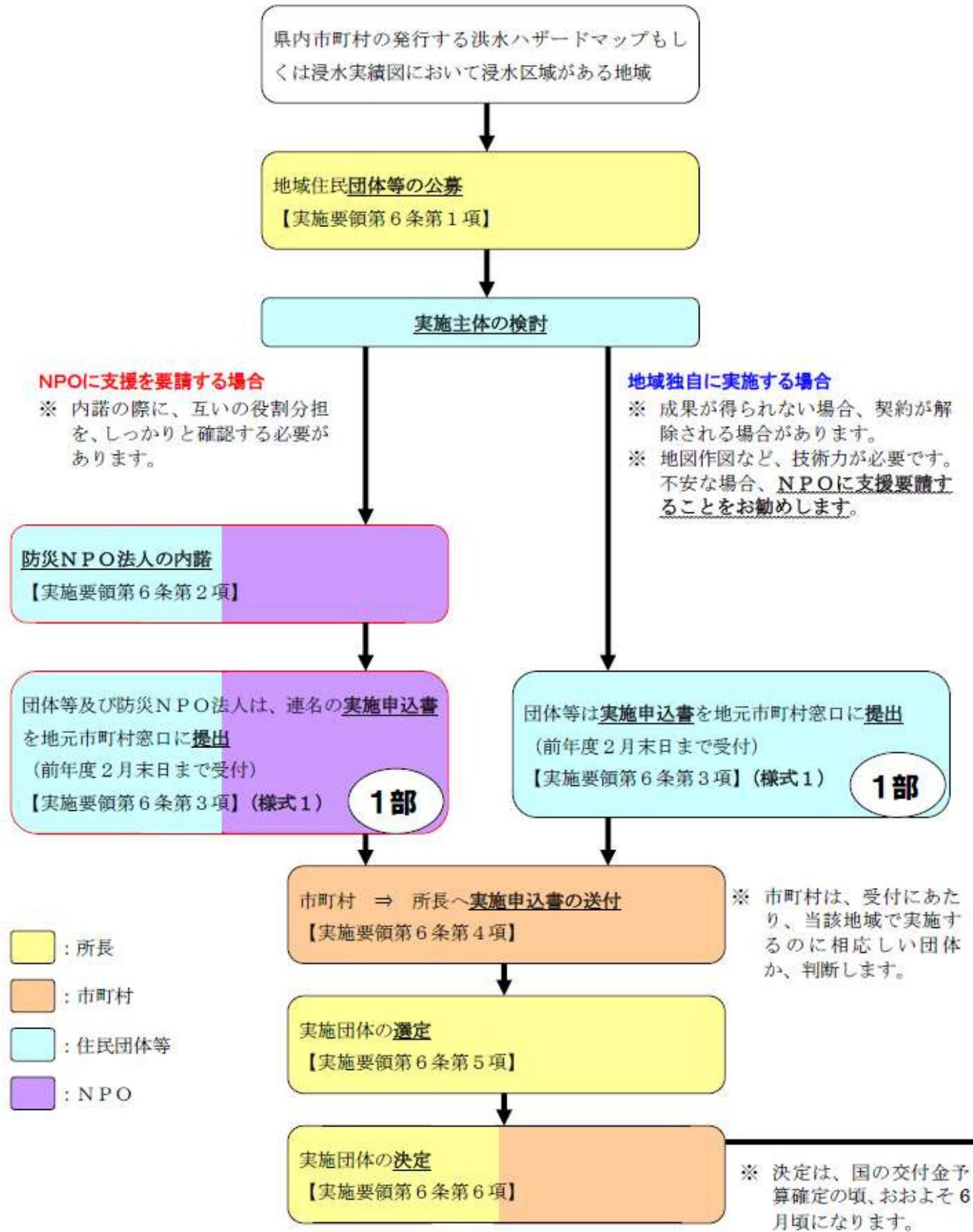
Ⅲ 手続き編

1. 手続きの流れ

まず、実施団体（自主防災会、町内会など）が、地区役員と協議を踏まえ申込みの合意形成をして、防災 NPO 法人への協力要請と併行して、市町村の窓口（防災担当課または河川整備担当課）へお申込みください。



地域協働事業の地域住民団体等への委託実施要領 フローチャート（参考）



2. 申込みの流れ

STEP 1

実施主体の選定

地域協働事業は、「町内会などが地域独自に実施するケース」と、「防災NPO法人に支援を要請するケース」の2種類から、選んで実施することができます。

防災NPO法人の支援を受ければ、地図の作成や事務手続きの支援や、有識者からのアドバイスが得られるなど、独自に行うよりも着実に事業に取り組むことができます。

●支援額

(1地区あたり、税抜き額)(R2年度時点)

	NPO法人に支援を 要請するケース	地域独自に 実施するケース	
手づくりハザードマップ作成支援事業	391,000円	118,000円	
大雨行動訓練実施支援事業 (伝達訓練編)	90,000円	16,000円	
大雨行動訓練実施支援事業 (避難判断編)	カード作成あり	101,000円	33,000円
	カード作成なし	79,000円	23,000円

ポイント：確実な成果が得られるために、NPO法人に協力を要請する地区から優先的に採択されます。NPO法人に支援を要請する場合、支援額の全額はNPO法人に支払うこととなります。

事前に連絡を取り、支援について内諾を得ておく必要があります。

STEP 2

市町村窓口への申込み

実施主体が決まったら、お住まいの市町村の防災窓口に「実施申込書」と「誓約書」を提出してください。

提出する書類	部数	注意事項
実施申込書(様式1)	1	防災NPO法人に支援を要請する場合は、書類の作成を依頼してください。
誓約書(実施申込書別紙)	1	申込書・誓約書には代表者の押印が必要です。

※ 実施できる市町村(括弧内は、県建設事務所名)

- (尾 張) 名古屋市、春日井市、小牧市、豊明市、清須市、北名古屋市、豊山町
- (一 宮) 一宮市、犬山市、江南市、稲沢市、岩倉市、扶桑町
- (海 部) 津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村
- (知 多) 半田市、阿久比町
- (西 三 河) 岡崎市、西尾市
- (知 立) 碧南市、刈谷市、安城市、知立市、高浜市
- (豊田加茂) 豊田市
- (東 三 河) 豊橋市、蒲郡市

※上記市町村以外でも実施できる可能性があります。一度、市町村の防災窓口または愛知県河川課までご相談ください。

STEP 3

協定・契約の締結

実施地区として採択された場合、県窓口から実施団体にご連絡し、事業実施の契約を行います。

次の契約書類を県側で用意しますので、記入・押印してください。

提出する書類	部数	注意事項
協定書（様式2）	3	<u>県・市町村・地域住民団体等</u> の3者で、協定を締結します。本協定に基づき、行政からの支援が得られます。
委託契約書（様式3）	2	<u>県と地域住民団体等</u> との契約書となります。本契約によって事業実施を委託することとなります。
委託契約書（様式4）	2	<u>地域住民団体等と防災NPO法人</u> との契約書となります。地域住民団体等の独自実施の場合は不要です。
事業再委託承諾申出書（様式5）	1	<u>防災NPO法人に再委託</u> するための申出書となります。地域住民団体等の独自実施の場合は不要です。

※ 防災NPO法人の支援の有無に係わらず県と地域住民団体等とで、委託契約を行います。

※ 防災NPO法人に支援を受ける場合は、再委託を行うこととなります。

STEP 4

事業の実施

各手引きにそって、事業を実施してください。

行政から講師や図面の協力が得られます。

STEP 5

完了報告書の提出

手づくりハザードマップが完成、もしくは大雨行動訓練を実施したら、すみやかに完了を報告してください。

報告にあたっては、事業によって内容が異なりますので注意してください。

提出する書類	部数	注意事項
完了報告書（様式7）	1	指定様式に記入し、提出してください。
参加者アンケート（別添1）	全部	参加者アンケートを回収した全部を添付してください。
手づくりハザードマップ	1	手づくりハザードマップ作成支援事業の場合。
実施状況写真	数枚	勉強会など事業のステップごとの実施状況の様子が分かる写真を、添付してください。
請求書（様式12）	1	指定様式に記入し、提出してください。

お疲れさまでした。今後も地域防災力の向上に、ともに取り組んでいきましょう。